

購入、リース、そしてレンタル。
もっとも重要なのは「デバイスを見える化」すること

業務用スマホ 調達最適解を考察する 各調達方法についての 課題とメリット



はじめに

“スマホのオフバランス化”が課題に

働き方改革による業務効率化の必要性や、リモートワークの普及により業務用スマホを導入する企業が増えています。そこで新たな課題としてその「調達」と「管理」が上がるようになりました。これまでは、企業側が端末を購入し従業員に支給する方法がほとんどです。また、リースを活用する企業もありました。そのどちらの調達方法でも、スマホを資産として管理しなければならないため、経営のスリム化を目指す企業では、“スマホのオフバランス化”が課題となっています。

本資料では、スマホの調達に関して、購入やBYOD、リース、そして、スマホが資産計上されないレンタルについて紹介します。「会社でスマホを手配したいが、最適な調達方法がわからない」という際のご参考になれば幸いです。

INDEX

はじめに	1	第3章 スマホ調達種別にかかわらず、必要になる IT資産管理 SS1	
“スマホのオフバランス化”が課題に		1. スマホだけでなく、パソコン、サーバ、 ネットワーク機器まで一元管理	15
第1章 スマートフォンビジネス活用の課題とは	4	2. 死活管理も容易なので、デバイスのムダが 省ける	16
情シスの負担となる4つのスマホ課題	5	3. ハードウェアだけでなく、ソフトウェアの 管理も	17
1. 常につきまとうセキュリティへの不安	6	4. 会社の状況に合わせた導入ができる	18
2. 導入から通信費まで含めたコスト負担	7		
3. デバイスの管理から、アプリの管理まで	8	おわりに	19
4. 導入時、更新時の手間が大きい		スマホ調達に関する情シスの負担を削減する	
第2章 スマートフォンの調達で、環境は大きく変わる	10	企業情報	
1. BYODへの不安から「スマートフォンは会社で買う」が主流に	11		
2. 一時的な資金負担を避けて、リースを選択するケースも	12		
3. スマホがオフバランス化する 「レンタル」という選択肢	13		
4. 購入、リース、レンタル その違いを比較			